



公共施設の再配置に関連する基本的な情報をお知らせします。

公共施設等総合管理計画②

前号に続き、公共施設等総合管理計画(案)の中身について触れたいと思います。前号では、この計画の最も大切な役割は、「道路や上下水道などのインフラ系の施設も含めたすべての公共施設について、更新費用と財源の見通しを把握すること」と述べ、その結果本市では、大幅な財源不足が起きることを報告しました。では、これは本市の財政が厳しいからでしょうか。それとも、本市の公共施設が多めだからなのでしょう。この点について解説します。

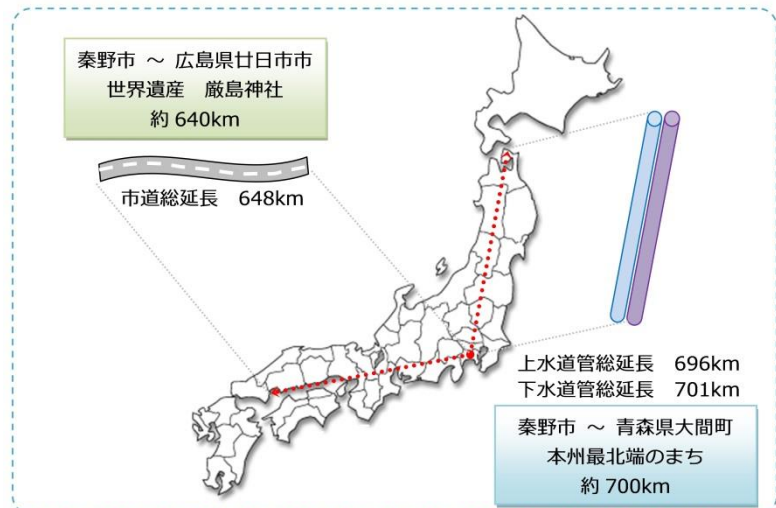
それぞれの処方箋

まず、本市の主な公共施設の数量は、右表のとおりです。数字だけではイメージしにくいですが、ハコモノの延べ床面積は市役所30個分を想像してみてください。また、道路と上下水道については、計画案では、担当者の工夫により右のような図を示しています。

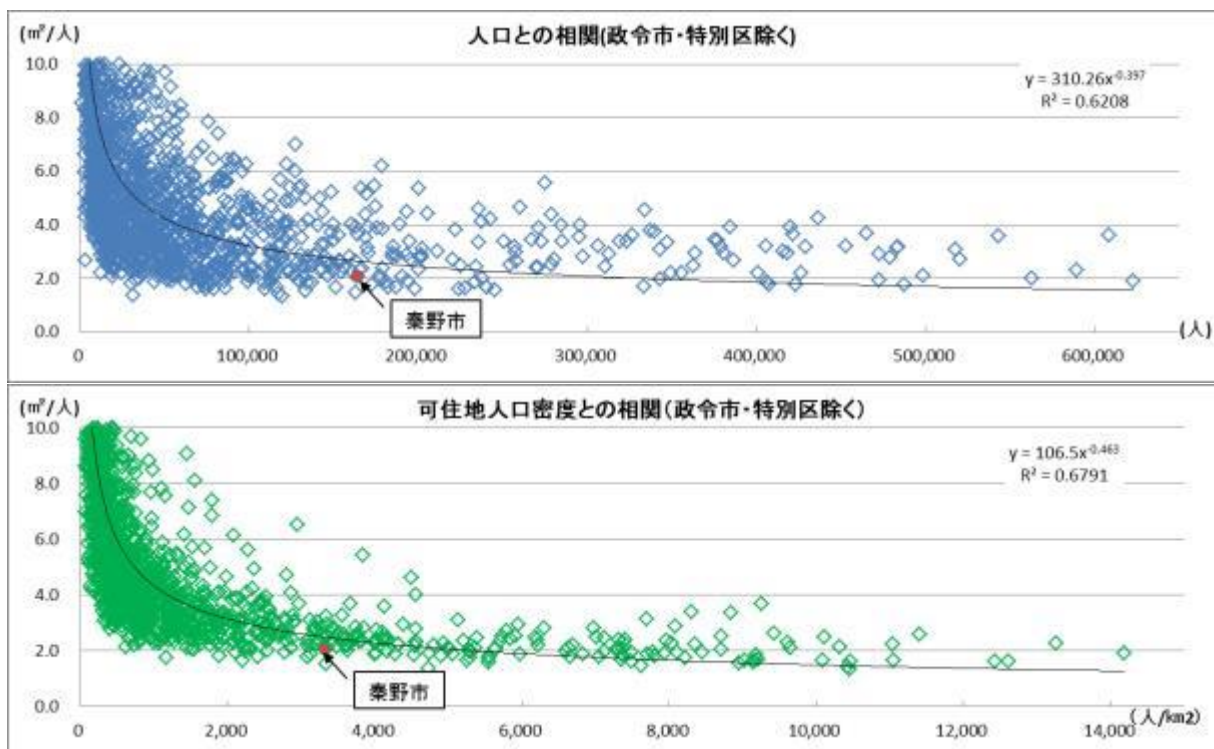
種類	数量
ハコモノ	建物：約30万㎡ 土地：約162万㎡
道路	総延長：約648km 総面積：約379万㎡
橋	総数：173か所 総延長：約3km
上水道管	総延長：約696km
下水道管	総延長：約612km

道路の総延長は、秦野市から広島県の世界遺産「厳島神社」までの直線距離に匹敵し、上下水道管の総延長は、マグロで有名な青森県の大間町までの距離に匹敵するそうです。1本につながっていたとしても大変な数量ですが、これが市内にくまなく広がっていることを想像すると、それぞれの担当課の苦勞がよくわかると思います。

次に、他の自治体と比較してみます。まずハコモノですが、人口と可住地¹の人口密度の両面から住民一人当たりの面積を比べてみると、次ページの図に示したとおり、どちらの面から見ても、少なめであることがわかります。

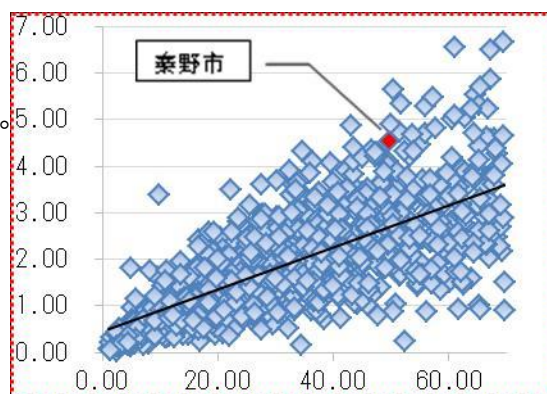


¹ 市域の面積から、森林や湖沼などの人が住めない部分の面積を除いた面積。本市の場合、市域の面積103.76㎢に対して可住地の面積は、49.57㎢となる。



それでも、すべてを更新するためには、大幅な財源不足が起きるわけですから、全国的に見たら大変な状況になることがわかります。では、道路はどうでしょうか。住民一人当たりの面積を可住地の面積と比較すると、右図のとおり、他の自治体よりも多めであることがわかります。

また、更新のための財源不足は、すでに公共施設等総合管理計画を策定済の近隣市では、平塚市 2 億円/年、小田原市 64 億円/年、厚木市 19 億円/年、伊勢原市 15 億円/年(ハコモノのみ)となっています²。これに対して、本市は、独立会計で賄う上下水道



と、再配置の方針があるハコモノを除くと 12 億円/年と試算しました。本市の試算は、一般財源ベースで行っている³ことから、一概に単純比較はできませんが、自治体によって様々であることがわかります。

公共施設等総合管理計画の策定は、いわば人間ドックの受診を求められたようなものです。成人病予防のために塩分は控えましょう、お酒は控えましょうというような一般論は同じでも、診断結果に基づく処方箋は、人によって様々になります。したがって前号では、個別具体の取組みの重要性を、総合管理計画の位置付けや性格から述べましたが、公共施設を取り巻く状況から見ても、本市の再配置計画のような個別の取組みが重要な意味を持つことがわかります。

² 財源に国県補助金や起債も含めた事業費ベースでの試算

³ 単純な更新事業に対して国県補助金はあてにできず、また市単の事業となった場合には起債もできないため、実態に近くなると思われる一般財源ベースでの試算を採用した。

